

## 模試の復習、分析について

- ・ 選択しなかった問題こそ復習する

選択しなかった問題は苦手意識があるはずです。

数学の式と曲線や複素数平面、化学の高分子、物理の原子や生物の進化など、いつまでも苦手意識をもって避けている分野がある人は医学部合格を諦めているようなものです。

特に昨年度の医学部入試においてこうした新課程分野の出題頻度は非常に高く、多くの私立医学部では選択も許されないため苦手分野をつくった時点で100点のうち20点が一瞬でなくなります。

選択しなかった分野こそ真っ先に解いて習得を徹底しましょう。

- ・ 10分以上余らせて見直しする、選択問題もすべて解ききるスピードを身につける

安定してセンター試験で満点とれる人は、必ず10分以上時間を余らせて見直しをしています。

また、特に難関医学部に合格した受験生は、センターの数学や理科は50分で選択しない問題まで含めて全問題解き、どちらがより自信があるかを検討した上で選択する問題を提出しています。

さらに残りの10分で見直しをしています。

そのため、結果は100点であっても、選択しなかった問題は5点失点していたり、見直ししていなければミスがあったりする受験生がほとんどであり、選択問題の検討や見直しの徹底によって結果的に100点をとることができています。

安定して満点がとれる受験生というのは、80-90点前後でふらつき、運がよければ100点のときもあるという実力とは大きく差がついていることに注意してください。

また、ぎりぎり4問解き終わる人からすると、スピードも1.5倍以上速いのが現実です。

授業の計算練習、暗記練習、毎日の練習でスピード訓練を時間に負荷をかけて行うようにしましょう。

- ・ 何回も繰り返して自分なりには習得した問題集からの出題にも関わらず失点した原因は何か。

普段の勉強をどう改善すれば満点とれるようになるかを考える。

今回のマーク模試は、講義型の参考書、数学は基礎問題精講、理科はExcelや体系物理で十分満点可能な出題内容でした。また応用問題集を習得したからといって点数がのびるわけではありません。

なぜ失点したのか、どうすれば満点がとれるような勉強ができるかを考え、普段の勉強方法を改善する具体的なルールをつくり実行してください。

- ・ 受験本番が一番体調、調子が悪いし最も焦るということを忘れないこと。

体調や時間配分の間違い、周囲からの焦りや問題を時間からの焦りを反省点にあげている人がいますが、受験本番がもっとも体調も調子も悪く（冬だし朝寒いし緊張するし十分寝れていない）、またもっとも焦っている状況だということを忘れないようにしましょう。

焦りを軽減する対策や体調管理、時間配分の徹底を行うのと並行して、たとえ体調や状態が悪く焦っている状況でもパフォーマンスを下げない方法を模擬試験を通して習得していきましょう。

・計算ミスの改善

いつも言っていますが、計算ミスが多い、もしくは見直しにて修正できない、時間配分を誤っている状態で受験本番を迎えると、合格できるかは完全にギャンブルです。

ミスが発生したらアウト、運良くミスしなければセーフ、という非常に不安定な状況で受験に臨むことになります。

ミスを1つでもした場合は、二度と同じミスをしないように改善策を立て、必ず守る厳格なルールを設定し確実に実行できるように訓練してください。

・精神論ではなく習慣化、ルールを決める。必ず実行するルール

対策を書く際に、まだ精神論に逃げている人がいます。

悪い例：焦らないようにする、問題文をしっかり読むようにする、速く解くように注意する、計算ミスをしないよう注意して解く、字はきれいに書く など。

繰り返しになりますが、受験本番は一番焦っている状況です。~~する、といった甘い目標設定では焦っている環境ではほぼ間違いなく実行できません。そうした受験生は必ずと言っていいほどセンター試験本番や二次試験の本番で1回や2回大きなミスをします。

どんなに焦っている環境でも必ず実行できるようにするのが策であり、そのためには~~する、といった甘い目標ではなく、必ず守る厳格なルールとして設定してください。

良い例としては、

“試験がはじまったら大問ごとに解き終わる時刻を書き込みそれを過ぎたら次の問題にうつる”

“文法問題は全速力で5分以内に解き、長文も解き終わってから文法に戻る”

“有効数字や数学の範囲は1回目に問題文を読むときに必ず印をつける”

“まとめてマークするのではなく、答えがでるごとにマークし5つごとにずれていないかチェックする”

“見直しのときには目で追うのではなく、もう一度解き直す”

“解いているときに見直す優先順位を書いておき、その順に見直す”

などです。

・普段の勉強を変えないでただ問題集を繰り返す、ほかの問題集をやっても同じ結果が待っている。

模擬試験の反省というのは、ただその問題の解説をみて習得するだけではほとんど意味はありません。また違う問題が出題されたら間違いなく失点します。

正しい反省は、模試の結果をうけて、普段の勉強方法を変えていくことです。

次の模擬試験にむけて、ただ問題集を繰り返す、あるいはほかの問題集をやったとしても、間違いなく点数は伸びず同じ結果が待っています。

問題集を繰り返すことは楽なのですぐ逃げたくなりますが、上述した通り80点とるために必要な勉強と、90点、満点とるために必要な勉強は全く違います。

センター試験も満点とるのは困難で、試験本番で満点が安定してとれるための必須条件は下記です。

- 1 本質を完全に理解している
- 2 問題演習を十分に行い、ほとんどの問題は一瞬でアプローチできる
- 3 高い計算力、スピードを習得している
- 4 時間配分、見直しなど、高い試験中のパフォーマンスを習得している
- 5 問題が解けるだけでなく、幅広い周辺知識まで習得している
- 6 高い自己管理能力、分析力を習得しており、不慮の事態に対して高いレベルで修正ができる

これらの必須条件を参考に、具体的な改善策・ルールを作成し実行してください。

・ルールを作成したら、意識して訓練する。無意識にできるようになるまで徹底する。  
具体的なルールを作成したら、まずは常に意識してそれを実行します。自転車に乗るのと同じで、だんだん無意識でもできるようになってきます。無意識にできるようになってはじめて、焦る環境でも実行できるようになります。  
無意識にできるようになれば、次に意識してルール化する改善策を設定し、同様にして無意識でも実行できるよう訓練していきましょう。